

滋賀県企業庁 経営戦略（財政計画における計画と実績）

1 水量見込み

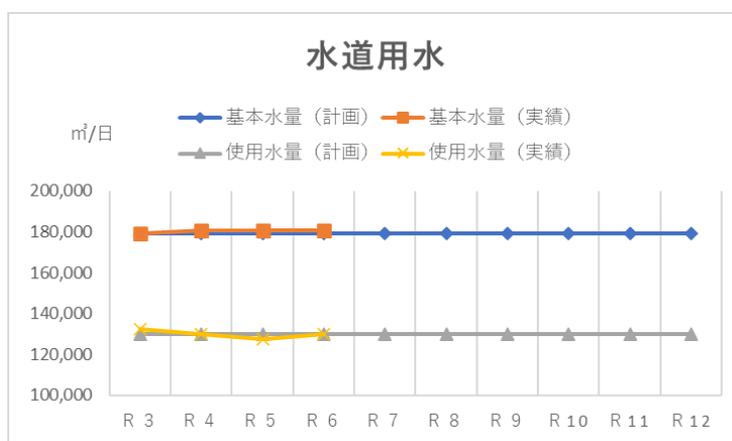
【水道用水供給事業】

○計画

- ・基本水量は市町との協議を踏まえ、令和3年4月から192,720 m<sup>3</sup>/日から179,090 m<sup>3</sup>/日へ見直し。
- ・使用水量については、受水市町への水需要調査を基に算定。
- ・なお、計画期間内の人口の変化による使用水量の影響については、馬淵浄水場および水口浄水場管内では減少するものの吉川浄水場管内では増加する予想であり、全体では微減となり、使用水量への大きな影響はないと見込み、一定の水量としている。

○実績

- ・基本水量は増量しているが、使用水量は減少。



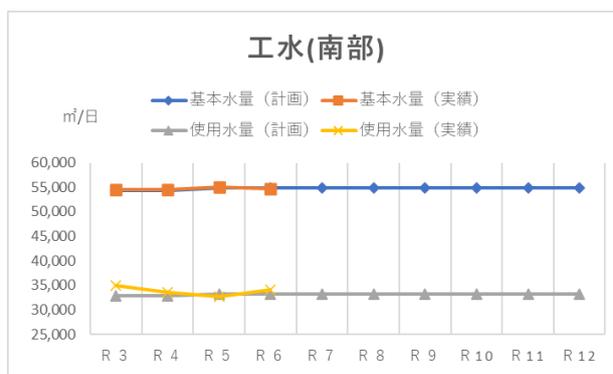
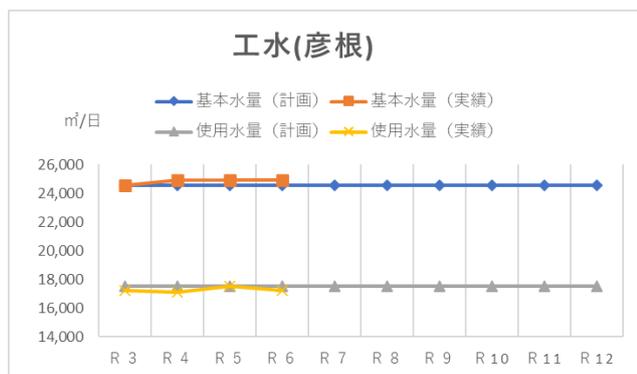
【工業用水道事業】

○計画

- ・基本水量は受水企業の意向を踏まえ、平成30年4月に見直しを実施。
- ・使用水量は受水企業へのアンケート調査を踏まえ横ばいで推移。

○実績

- ・基本水量は彦根、南部共に受水企業の水量増量により増加。
- ・彦根においては、使用水量に減少傾向が見られるが、横ばい。
- ・南部においては、使用水量は減少傾向。



## 2 収支計画

### 【水道用水供給事業】

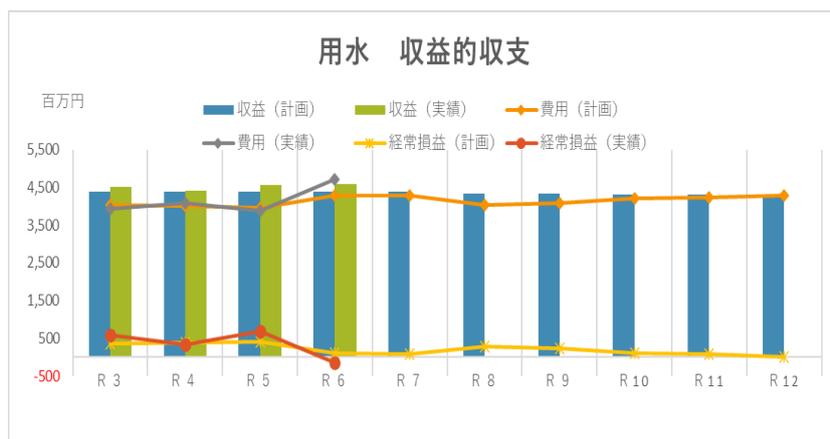
#### (収益的収支)

##### ○計画

- ・吉川浄水場の耐震化対策工事や管路の更新工事により、費用である減価償却費が増加し、経常損益は減少傾向にあるものの黒字を確保できる見込み。

##### ○実績

- ・近年のエネルギー価格の上昇などの物価高騰により、令和6年度予算は赤字。



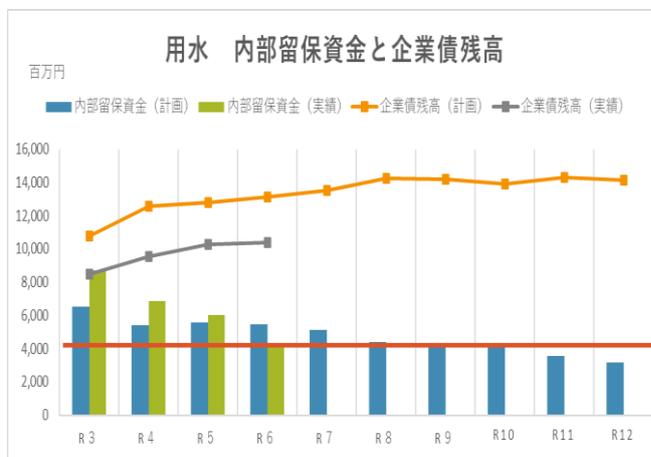
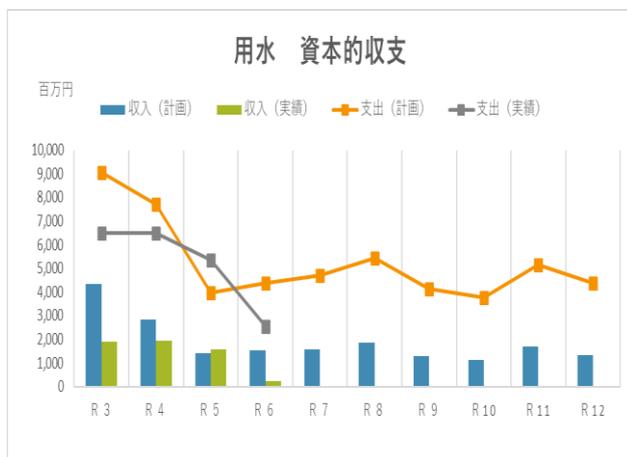
#### (資本的収支)

##### ○計画

- ・施設の更新および耐震化による工事により建設改良費が増加するため、自己資金である内部留保資金を活用するとともに、企業債で資金を調達する予定。

##### ○実績

- ・1年分の給水収益を確保することを指標に、企業債の借入を行ったことから、計画よりも企業債の借入が少なくなり、企業債残高は計画よりも減少、内部留保資金も減少。



【工業用水道事業(彦根)】

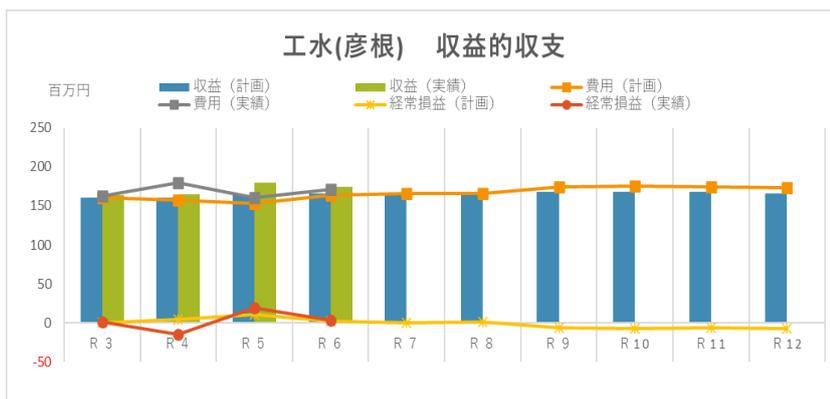
(収益的収支)

○計画

- ・管路更新等による減価償却費の増加により、令和 9 年度以降、経常損益は赤字となる見込み。

○実績

- ・令和 5 年度に料金改定を行い、料金の値上げを行ったことから、令和 4 年度は赤字であったが、令和 5 年度から黒字。



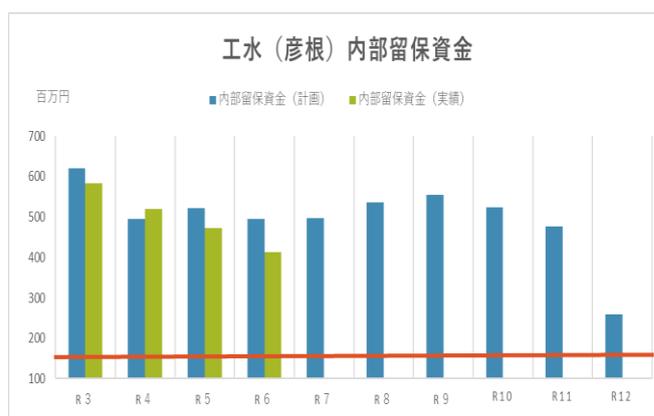
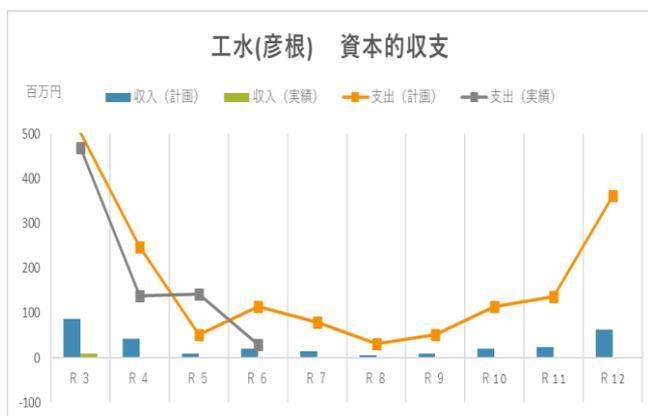
(資本的収支)

○計画

- ・工事に伴う建設改良費を自己資金である内部留保資金で賄うことができる見通しのため、企業債による新たな資金調達は予定していない。
- ・経常損益は赤字に転じるものの、令和 12 年度においても内部留保資金は年間給水収益を維持できる見込み。

○実績

- ・計画よりは内部留保資金が減少しているものの、令和 5 年度決算で給水収益の約 3 倍の資金を確保。



【工業用水道事業(南部)】

(収益的収支)

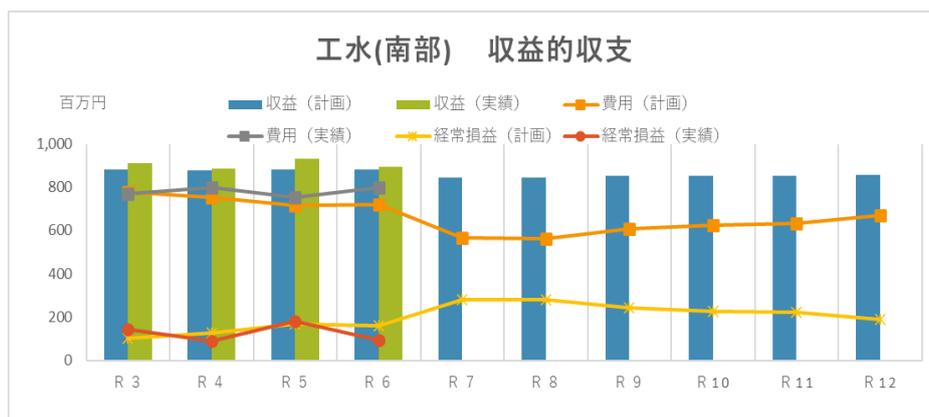
○計画

・減価償却費の増減による影響はあるものの黒字を確保できる見込み。

○実績

・令和 5 年度に料金改定を行ったが、据置き。

・決算は黒字を確保。



(資本的収支)

○計画

・管路更新工事等により建設改良費は増加するが、自己資金である内部留保資金で賄うことができる見通しのため、企業債による新たな資金調達は予定していない。

・令和 12 年度には企業債の償還が終了する見込み。

・給水収益の 5 倍の内部留保資金を確保しているが、令和 15 年度から浄水場耐震化工事を実施する予定(約 50 億円)であり、内部留保資金を活用する予定。

○実績

・建設改良費は計画よりも増加しているが、企業債残高は計画どおり減少。

・内部留保資金も減少しているものの令和 5 年度決算において給水収益の約 5 倍の資金を確保

